

地域内での循環型社会形成に向けて ～自治体 SDGs への貢献～

日本ミクニヤ株式会社
 発酵分解 TS カンパニー

☎ 044-577-3928
 ✉ tokuoka@mikuniya.co.jp
 ✉ abe@mikuniya.co.jp

URL http://www.mikuniya.jp/technology/technology_mx.html

背景

2016年1月1日、国連において、「持続可能な開発目標 (SDGs)」が正式に発効しました。SDGs は、2030年に向けた持続可能な開発のための17の目標です。全ての国々はこの目標に基づき、今後15年間にわたり取組みを進めることとなります。SDGsに法的拘束力はありませんが、幅広い社会的なニーズに取組みつつ、地域に応じた社会問題や自然環境の保全を図る戦略が必要だとされています。

「誰も置き去りにしない」持続可能な社会の形成に向け、地方自治体にも自発的に取組む事が求められています。

我が国では、目標の中でも気候変動に関するターゲットの設定が高く、まさに官民総出で取組むことが必須とされています。

生ごみを使って循環型社会の実現へ

当社では、高温・好気発酵分解技術を活用した装置「ミシマックス」の製造・販売・メンテナンスサービスを行っております。

お願い
 ミシマックスの概要については、「水道・下水道」の 카테고리 本誌 P.50 をご覧ください。

ミシマックスは、比較的減容化が困難と言われる下水汚泥について、24時間で90%超(弊社実証実験実績値)という高い減容化率を実現しました。また、下水汚泥に関わらず生ごみ等のさらに発酵しやすい有機性の廃棄物であれば処理が可能です。学校や給食センター、病院、老人福祉施設や介護施設などの調理残渣や残飯を対象に導入実績を有しています。(内蔵している脱臭装置についても個別に導入可能です。)

参考：低CO₂川崎ブランド'17 認定技術
http://www.k-co2brand.com/brand/src/pdf/products/brochure_2017.pdf

ミシマックスは廃棄物発生源でオンサイト(現地)処理が可能のため、地域やコミュニティ毎に生ごみを収集し、ミシマックスで減容化することで、運搬処理コスト、焼却処理コストが削減できます。さらに残渣は高濃度の窒素・リンを含有する菌体肥料として農作物や花壇等へ活用可能であり、地域での循環型社会形成に繋がります。



循環型社会形成を目指して

現地で処理するという利点により、輸送時の燃料、焼却処分に使用する燃料が削減され、CO₂削減にも繋がることで地球温暖化対策としても貢献します。

有機性廃棄物の処理や利活用方法の検討、CO₂削減方策の検討、中山間地におけるゴミ収集コストの削減等ご検討されている地方自治体の方々は、ぜひ一度お声がけください。地域で実現する資源循環型社会の形成に貢献するため、最適な提案をさせていただきます。

導入想定

- 回収された生ごみの処理
- 給食センター等の調理残渣・残飯の処理
- 公立病院における調理残渣・残飯の処理
- 老人福祉・介護施設等の生ごみ処理
(脱臭装置のみの導入も可能です)
- 畜産における糞尿の処理
- 中間処理・最終処分業者様での減容化処理
- 残渣の堆肥活用で循環型社会形成として
- 焼却処分量削減によるCO₂削減対策として